

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900862		
法人名	有限会社シエナリゾート		
事業所名	グループホーム ことぶき ( )		
所在地	旭川市3条通21丁目1973番地10		
自己評価作成日	平成22.11.20	評価結果市町村受理日	平成23年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の支援…四季折々に出かけて、気分転換、運動量の確保、五感刺激のために一年中計画し実行している。(1月初詣出、2月冬祭り見物、3月永山河川敷に野鳥観察、5月お花見、6月花壇公園散策、7月上川神社祭の出店見物、9月お弁当持参で遠足、10月紅葉狩り、11月外食ラーメン他)  
 行事…お誕生会、節分豆まき、節句のお祝い、七夕飾り、夏祭り盆踊り、敬老の日のお祝い、クリスマス会、ボランティアによる演奏のイベントなど、行事を計画し実行して楽しく、ストレス発散等に日々の中で活かしている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900862&amp;SCD=370">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900862&amp;SCD=370</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**・地域とのつきあい**  
 地域の「ふれあいサロン」の食事に参加や市民委員会の運動会、町内会の親睦会参加、婦人部との交流、災害対策への協力依頼や意見交換で事業所の運営に反映するなど地域と連携した活動に取り組んでいる。また「ことぶき夏祭り」を毎年実施し、近隣住民や地元の人々との交流に積極的に取り組んでいる。  
**・日常的な外出への支援や役割、楽しみごとの支援**  
 一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒に、調理や食事の準備、かぼちゃ団子などのおやつ作り、畑仕事や漬物漬け等を楽しんで本人から学んだり、支えあう関係を築いている。また、お祭りや冬祭り見物、大正琴のコンサート鑑賞や弁当持参でのドライブ、ラーメンや寿司等の外食等戸外にできるだけ多く出かけることができるよう支援を実施している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します		
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でご利用者一人ひとりを個人としての尊厳が尊重され病気(障害)を持ちながらも私らしく暮らしていけるように日々の生活をとぎれなく支援しつづけていること。	事業所独自の理念をつくりあげ、職員会議やミーティングを通じて話し合い、理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会行事上川の鎮守祭(上川神社祭)市民委員会行事などに積極的に参加地域に住む一員として交流している。	市民委員会や町内会行事参加、婦人部との交流、災害対策への協力依頼や地域の火防部長、専門家の助言や意見交換で事業所の運営に反映するなど地域と連携した活動に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域(近隣)の人達もときどきながらどうしたらここで暮らすことができるかなど相談をうけており実習生も2名受入れ人材育成に尽くした。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者がお出かけして楽しい大正琴の生演奏を観賞したり、お祭りの出店を散策してわたあめを買ったり、七夕祭りに出かけて雰囲気味わったりしたことを推進会議で活動内容報告、評価されている。	運営推進会議は、定期的に実施され緊急時の通報訓練や避難誘導訓練等地域との協力体制構築等具体的に話し合い、そこでの意見を運営に反映している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の包括、市介高の更新認調などを通じてケアサービスの実情について伝えながら積極的に協力できる。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務や研修会参加等を通じて連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠の時間帯もあるが身体拘束は厚労省3つのガイドラインに合致したときのみ、やむを得ない時、上司の許可、家族に報告のうえ実施する。	高齢者虐待防止や身体拘束廃止について、内部研修会実施等で管理者及び職員の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待などの見過しはあり得ない従業者は連携して入居者といつも連れ添い、寄り添いながら暮らしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度発足後10年経ち過去にこの制度について学ぶ機会をもった。これらの制度活用の個別の相談があれば専門家の指導をうけ乍ら関係者を支援していく用意がある。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明する。認知症の重度化や経口栄養摂取不能などの特変に応じた医療機関連携の橋渡しを行う。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価時の家族アンケートほか日常生活での思いやサービスの意見などがあれば速やかに汲み上げてそれらを運営に反映させる。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の意見箱を設置し、市町村等の相談窓口の啓発ポスターを掲示している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その時々を利用者の不安、意見などはその都度毎日話し合いをもち、職員全体で意見や提案を聞き汲み上げて運営に反映させる。	日常業務や個別の相談の機会を設け、職員の健康問題や相談、意見や要望等の話し合う機会を設け、職場環境・条件の整備に努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力によるキャリアがUPしたことを認められれば役職、昇任、昇給のほか責任が重い職務が与えられ向上心と責務を持った就業環境が与えられる。(職場条件整う)			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	民間研修会、報告会には参加する機会を確保、厚労省指定の研修はキャリアアップの為に必修であり参加させている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市のGH職員の交流(実習)を含め、市内GH職員の実習研修など相互訪問によりサービスの質向上に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安、要望、現在おかれている状況を把握し、話を良く聞き信頼関係をつくっている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、何に困っているのか良く聞き受け止めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い状況を見極め必要なサービスを可能な限り対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを共感し、共に暮らす同士として支えあって生活している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況を常にお伝えし、情報共有に努め支えあう関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人など馴染みの人達に季節ごとの行事に参加して頂いている。	友人や知人が気軽に来訪できる環境づくりやお祭り等の地域行事参加で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見守り職員は皆さんで楽しく生活出来る様場面作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、行事に招待したり、気軽に来訪できるような関係を大切にしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、職員同士が連携してその人の思いや希望を叶えるように努めています。	アセスメントの実施で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に以前の生活、暮らし方を聞き、より良く暮らせるように把握し、努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを見極めて行動や体調の変化を把握するように努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の訪問時には日々の生活の様子をご報告、現状と課題に即した話し合いを行う。ご家族職員の意見交換、カンファレンスを行いケアプラン、モニタリングをしている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見等を反映するよう努めている。また、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子や変化を個別のケース記録に記載して、ミーティング等の職員間で情報を交換しながら実践しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に対応して、様々な支援やサービスが出来る様に努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と町内の方々との協力により、避難訓練を実施しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を尊重しかかりつけ医による病院への受診をすることによって本人が安心出来るように努めています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、常勤の看護師、受診の際の医師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	判断が難しい事などは、常に報告、連絡、相談を行うようにしている。また通院時でもできる限り詳しく報告するよう心がけている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院での様子を家族と連携しながら把握するように努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う支援体制はかかりつけ医や看護職員ほかチーム全員で日常健康管理や急変時に対応できる様取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自出来る限り適切に対応出来るよう日々努力している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時(近隣火災含む)の避難訓練においては台風、地震、落雷など自然災害を想定した行動方法を演習し、いざという時には地域近隣の協力を得て避難する。	スプリンクラーの設置が完了している。また、市民委員会や町内会、婦人部、地域の火防部長や専門家の助言を運営に活かす等緊急時の対策に取り組んでいる。	緊急時に地域の協力が得られるよう協力体制構築に取り組んでいます。今後は、さらに新たな設備の設置等で生まれる課題の対策について検討されることを期待します。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれ心がけてはいるがとっさの声掛けの際にまでは行き届いていない。	身体拘束廃止や接遇等の研修会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の特長を把握し、自由に表現できる雰囲気づくりを心がけている			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に過ごせるよう支援している。また利用者間のトラブル防止に努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに合せ服を選んだり化粧をするなど、時間を作り行えるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の時点からこれから作るものについて話をして手伝ってもらえることは一緒に行う。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に、畑で野菜の収穫や漬物漬け、調理や味付け、食事の準備や食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ずつに目を向け食べる量、食べ方をチェックし、バランスを見ている。冬季は特に水分も勤めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の義歯洗浄、口腔ケアを声掛けや見守りを徹底し、状態を把握するよう努力している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時の見守りをできる限り行い常に一人ひとりの状態を把握し、本人の排泄に対する自信を保つように個人に合わせた自立支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味な入居者さんに対して繊維質の多い物、乳製品を取るように心がけています。また必要に応じ下剤の服薬をしたり記録を取り予防に努力している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時の湯の温度や気温に合わせて体調を崩さないように注意している。個々単位で入浴者を記録し、全員が常に衛生的であるよう努力しています。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴が楽しめるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	深夜の各室巡回時、不眠の方が居た場合は話相手になったり、空腹の訴えがあったときにはお茶やミルクを飲んでいただいたり、できるだけ不眠支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容確認し、管理、ファイルの整理整頓し、服薬時は本人に手渡し服用の確認をする。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる様支援。もやしの芽取り、畑作り、草取り、花植え、水やり、お茶碗洗い、おしぼりたたみ等お願いしてお手伝いしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の天気と本人の気分に応じて買物、ドライブ、喫茶店、お祭り、お花見、散歩等に進んで出かけています。	お祭りや冬祭り見物、大正琴のコンサート鑑賞や弁当持参でのドライブ、ラーメンや寿司等の外食等戸外にできるだけ多く出かけることができるよう支援を実施している。また、本人・家族の旅行や外食等継続した関係づくりを支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を手元に持っている。家族さんよりお金を預かり事業所が管理、外出時、買物時等お金を自分で払って頂けるようお金を手渡しています。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの居室に電話があり、他の利用者さんに聞こえない様、設置場所に配慮している。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が安心して過ごせるように目配りを心がけている。共用の場所には季節感を味わってもらえるように生花を置いたり、装飾を行ったり、畑作りなども行っている。	共用空間は、広く採光が採り入れられ明るく清潔感が漂っている。リビングや壁には、季節毎の行事参加の写真や生け花等が置かれて季節感や生活感が感じられ本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場では利用者の方が集まり、お茶を飲んだり会話を楽しんだり、新聞、テレビを観ながら個々に楽しく過ごしている。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方、一人一人の個性を大切にしながらご家族とも話し合い、自分の空間を安心して過ごせるよう心がけている。	押入れやトイレ・洗面台がある広い居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、仏壇や家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒がないように歩行時には見守りをしている。安全に生活が送れるように滑り止めをしたり、居室内の手摺の増加も検討している。			

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900862		
法人名	有限会社シエナリゾート		
事業所名	グループホーム ことぶき ( )		
所在地	旭川市3条通21丁目1973番地10		
自己評価作成日	平成22.11.20	評価結果市町村受理日	平成23年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の支援・四季折々に出かけて、気分転換、運動量の確保、五感刺激のために一年中計画し実行している。(1月初詣出、2月冬祭り見物、3月永山河川敷に野鳥観察、5月お花見、6月花壇公園散策、7月上川神社祭の出店見物、9月お弁当持参で遠足、10月紅葉狩り、11月外食ラーメン他)  
 行事・お誕生会、節分豆まき、節句のお祝い、七夕飾り、夏祭り盆踊り、敬老の日のお祝い、クリスマス会、ボランティアによる演奏のイベントなど、行事を計画し実行して楽しく、ストレス発散等に日々の中で活かしている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900862&amp;SCD=370">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900862&amp;SCD=370</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年12月22日

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して、常に確認しながら意識を持ち実践している		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の飲食店に出かけて外食をしたり、行事を案内し参加して頂いている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域集会に参加して、ゲームや認知症に対する理解を得られる様に接し方などの相談にのっている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組み内容や、具体的な防火対策、いざという時の避難場所についての意見を頂いている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者との研修会には必ず参加して実態を把握する様にしている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全ての職員が、日中、玄関や居室に鍵をかける事の弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から入居者に対する態度、言葉遣いなどを話し合っており、身体拘束、虐待は行わない様、職員同士で認識している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要と思われる入居者には、アドバイスをしながら支援している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金や起こりうるリスクや緊急時対応、重度化による医療体制の詳しい説明を行い同意を得ている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の態度や言葉などから、真意を見極めて対応したり、不満を表している時は、職員の情報共有にてケアを行い、ご家族の意見も頂いている		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング時に、意見や要望を聴きいれて解答を伝える様にし、職員が提案を出し易い環境、雰囲気づくりに配慮している		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意識向上で取得した資格により、職員のキャリアアップと責任ある立場を考慮している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修は職員が交代で参加し、研修報告書や口頭によって他職員にも伝え共有する様にしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの行事にも参加し交流を通して雰囲気や接し方を参考に、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の今の思いを受け止め傾聴し、信頼関係の築ける様に心がけをしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの介護に対するご家族の思いやご苦勞を理解し、今後の要望を聴き、信頼関係を築ける様努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の現状を把握し、ご家族からも聞き、今必要としている支援を見極めサービスに繋げていく様に努めている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるので、これまでの経験を聴いたり学んだりしながら、信頼関係を築ける様努めている		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の現状を常にお伝えし、ご家族と共に、どのように支えて行ったら良いかを話し合いながら支援をしている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人、馴染みの関係を把握し、外出等の支援をしている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の係わりを見守り、又は会話に加わりながら、関係が円滑になる様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にもご家族からの連絡があり、継続的な係わりをもっている			
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での意向、希望(買物・散歩・ドライブ等)添い、その人らしく暮らして行ける様、情報を共有している			
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から以前の生活歴や暮らしぶりを聴き、ご家族の話からも支援に活かせる様努めている			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し一日の行動、体調変化を見極めて支援する			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望を取り入れ、職員と状態をカンファレンスしながら現状に添って計画を作成している			
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の変化や実情は個々のケース記録に記載し、毎日のミーティングで報告され、職員間で情報を共有している			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との旅行や外食の外出支援、医療機関への通院、夜間救急なども柔軟に対応している			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館主催の「ふれあいサロン」に出かけて食事を楽しんでいる方もあるので、体力に応じて増える様に支援する			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医による継続医療を受ける事により、ご本人が安心出来る様に支援している(ご家族の対応にて通院する方もいる)			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師に日常の健康管理指導など仰ぎます		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の継続医療により、退院状態も考慮して頂き関係を密にしている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴いご本人、ご家族の意向を確認しながら、医療行為で入院が必要となるまで、十分な支援を行っている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生は半数以上が受講しており、応急処置、バイタルサインの測定、状況により即、救急車の要請を行う。緊急時対応に付いては、ミーティング等で話し合いをしている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の他にも、全職員が常に意識をもち身につけている。近隣の方には、協力体制を築いている		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の考えを尊重し、思いやりの気持ちで接する様に心がけている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買物外出希望や訪問パン屋さんの時には、好みを選んで自ら支払する方もいる		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせて時間の流れになりがちなので、個々のペースで生活が出来る様に支援していく		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へ行ったり、訪問を受けたりして整容に気配りし、気候に合った洋服選びを助言し、おしゃれを楽しめる様に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを掲示し、好みを合わせたり、下準備の手伝い、食後の食器洗い、拭きをして頂いている			
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂食量や水分摂取量を把握して、量を調整しながら盛付にも配慮している			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔は、日頃から心がけており、個々に声かけ見守り、一部介助、全介助の支援をしている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の意思表示の無い方にも、気配や動き、パターンにより誘導する事により、排泄が出来る様に支援している			
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態に合わせて、繊維質や乳製品の食品を取り入れながら、歩行や体操、運動をする様にしている			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調、希望を踏まえたうえで実施している			
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整える様に努めている。夜間の不眠支援に対しては、お茶を飲んだり、話をしたりして落ち着ける様に支援している			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を把握し、ファイルの整理、管理をし、服用時には手に渡して、服用を確認している。症状の変化時には、医師の指示を受けている			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で調理の下準備、食後の片付け、漬物漬け、畑仕事など、個々の力を発揮出来る様に配慮している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、希望に応じて、買物、喫茶店、緑日、ドライブ(紅葉狩り・公園)に出かけている。ご家族との旅行なども支援している		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通院時の売店、スーパーでの買物は、事業所の預かり金から、ご本人が手持ちをして支払いをするなど、残存能力を活かし楽しみを感じて頂いている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望された場合は、事業所の電話をつなぎお話を頂く。手紙等が届いた時は居室に届けて、届いた事の確認やお礼を電話で知らせたりしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の過ごし方を知り情報を活かしながら、共用スペースを活用出来る様に季節感のある物を配置して暮らしの場として整えている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースやホールの椅子、テーブルの配置により、独りで新聞を読んだり、何人かでテレビを観たりお茶を飲んだり、くつろげる様に工夫している		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた家具、寝具、仏壇などを配置し、安定した生活を送れる様に個々に相談している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来る事を把握し、状況に合わせて安全を見守りする(自室の掃除機かけ、拭きなど)失敗に対しても不安をとり除き、力を発揮出来る様に支援している		

## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	正面玄関の施錠時間帯がある	日中帯も施錠なしで暮らすことができる	介護職員はいつも動向を見守り短い時間帯でも自由に過ごし一緒に散歩、散策、買い物などに出かけていきたい	6か月～1年
2	23	在宅で一人暮らしだったか、自由があったがここは制約があり、自由に買い物などしていきたい	買い物は特売、売り出しのツアーだったり、自分の好みの化粧品仏壇のお供え物など外出支援	新聞折込チラシで個数限定時など、声をかけて応援、買い物に参加中	1か月
3	29	地域資源の利用が少ない	月に1回市民委員会主催のふれあいサロン(ランチ)に参加する	入居者、ご家族の意向を踏まえて2～3名の参加を支援する(送迎つき)	1か月
4	31	看護職員を確保していない	看護師を確保して24h緊急対応指示、判断を仰ぐ	医療連携を密に行い普段の健康管理、医療的な支援態勢の確保をできるようにする	2か月～3か月
5	33	重度化や終末期にむけた介護力のあり方	在宅酸素、インシュリン注射を必要とする入居希望者に応える	本人や家族の意向に応えられる様に、スタッフの理解、関心、意欲を高めていく	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。